

# Issue Map

## on Research Assessment in the Humanities and Social Sciences

人文・社会科学系研究の  
評価に関する論点地図

Ver. 1

この地図は、リサーチ・アドミニストレーター（URA）と研究コミュニティの間で、公正で責任ある研究評価についての認識を高め、対話の場をつくることを目的とし、人文・社会科学系URAネットワーク\*1有志によるWGメンバーが、NPO法人ミラツクの協力を得て作成したものです。①研究評価に関する文献、②有識者ヒアリングから抽出した、人文・社会科学系研究の評価に関する論点を（地方）ごとに分類し、それぞれの関係性を考慮しながら配置しています。

左上の「評価の目的」に関する論点からはじまり、評価の体制、評価の手法としての「定性評価」「定量評価」、そしてその間にある「インパクト評価」が〈河口〉となり、その先には〈海〉である社会が広がっています。

研究コミュニティは、〈海〉から恵みをもたらわないと生きてはいけません。またこの〈海〉を豊かにし、資源を投下してもいいと理解してもらう必要があります。それがかなえば、海で水蒸気から雲ができ、また山の上に雨が降って土地が潤うかのように、「そもそも評価とは」や各指標の議論へ戻ってきて、これらの再考を促し、評価の改善にもつながっていく、ある種の循環、エコシステムといえるかもしれません。

この地図は、議論をしている時に、「今どの位置の話をしているのか」ということを確認するために使うことができるでしょう。。評価に関する課題や議論の蓄積をふまえ、堂々巡りに陥らず一歩前へ踏み出すために。

またこの地図が、研究評価の議論について、認識の差を埋め皆で議論する土台となればとも思っています。タイトルには人文・社会科学系とありますが、各論点をみると他分野にもあてはまることがお分かりいただけることと思います。

この地図はVer. 1であり、今後アップデートされていくべきものです。地図を使ってくださった方のご意見を反映しながら、Ver. 2、Ver. 3と続き、地図を中心に議論のネットワークが広がっていくことを願っています。

2022年9月

\*1 人文・社会科学系URAネットワーク  
2014年以来、「人文・社会科学系研究推進フォーラム」を開催している幹事校URAを中心とした、人  
社系支援業務担当者のゆるやかなつながり。イベ  
ント開催や情報共有等の活動基盤として機能している。



# Issue List

## on Research Assessment in the Humanities and Social Sciences

人文・社会科学系研究の  
評価に関する論点地図

Ver.1

研究評価における資金配分機関などの中間組織・境界組織の責任範囲はどこか

・資金配分機関などの中間組織・境界組織の責任明確化と評価の実質化

01 参考文献・ヒアリング | 18.

組織単位での研究成果を透明性や客観性を担保しながらどのように測定すべきか

・多種の成果がある中で、透明性や客観性の点からいかにして組織単位での研究成果量を測定するか

05 参考文献・ヒアリング | 4.

ピアレビューをさらに向上させていくにはどのような試みが必要か

・ピアレビューに伴うバイアスや評価基準の固定化を排除するためにはどのような仕組みがあるか  
・日本全体にピアレビューをするだけの人材リソースやプールがあるのか

09 参考文献・ヒアリング | 13/15. 21.

プログラム評価の十分な検討と、経験の蓄積をどのように行うか

・プログラムによる政策介入の効果を詳細に検討する「プログラム評価」についての十分な検討と経験の蓄積

13 参考文献・ヒアリング | 18.

研究や研究者への純粋な支援や発展に資する研究評価を実現するために何が必要か

・研究評価が、資金獲得や人事のための「査定」を第一義とするのではなく、若手支援や研究そのものの支援・発展に資するものであるために何が必要か。また、実現に向けて何が阻害要因となり得るか

17 参考文献・ヒアリング | 3.

学術的成果以外に大学が評価されるべき側面は何で、また、それらにどのような評価基準が設定されるべきか

・大学は社会の期待に応えることも求められるため、学術的成果のみならず、直接的な課題解決等への貢献、人材育成、問題提起等、貢献の多様性に応じた評価が必要

21 参考文献・ヒアリング | 9.

インパクト測定にどのように長期的・包括的視点を取り入れながら総合性を担保するか

・人文・社会科学におけるインパクト測定  
・社会の中での知識の価値創出、社会変革といった包括的な視点、長期的で体系的なインパクトの測定をいかに行っていくか

24 参考文献・ヒアリング | 14. 14.

研究の質をどのような指標や根拠が測定しうるのか

・いかなる指標や根拠が、人文・社会科学の質を代替的に示し、測定しうるのか  
・人文・社会科学が自らの研究成果をどのように把握して示すのが良いのか  
・研究者が自身の「インパクト」への想像力と表現力をいかに高めるか  
・「卓越性」を考える際に現存のデータは十分なのか  
・「卓越性」という名称は、研究においては変更すべき誤ったコンセプト、あるいは本質にふさわしくない名称ではないのか  
・著書・論文以外の著作物についても評価の対象とされるべきではないか  
・人文学に対して量的評価は可能か  
・「何」を数値化するか

28 参考文献・ヒアリング | 4. 4. 16. 9. 9. 20. 8. 9.

研究者間で分野を超えて活発な議論がなされるためにどのような環境を整備すべきか

・各分野が国内外問わず全ての研究者や実践者に開かれ、議論ができる環境をつくるにはどうすればよいか  
・研究者間で互いに批判しあいつながら時代に対応し新しい価値を創造する環境を作るにはどうすればよいか  
・「生産的相互作用」の観点から、知識交換やネットワークの拡大を促す取り組みが適切に評価されるには何が必要か  
・学問が権威ある人の再生産になるのを防ぐにはどうすればよいか  
・被引用数あるいはインパクトファクターの類での測定は現時点で既に評価が確立している対象者や対象内容にその評価を強化するという帰結になる

02 参考文献・ヒアリング | 7. 7. 15. 7. 9.

学問領域毎に相応しい(効果的である)評価のあり方をいかにテラーメイドするか

・現在の研究評価制度がもつ課題と解決策を広く関係者間で検討し、効果的な評価システムを構築するにはどうすればよいか  
・内実を異にする学問領域ごとに、それにふさわしい評価のあり方をいかにテラーメイドするか  
・多様な変数をふまえながら、大学、地域、学問分野それぞれの事情に適した研究環境と支援制度を構築

06 参考文献・ヒアリング | 18. 1. 18.

研究評価改善を実行に移すためには何が必要か

・新しい評価基準を大学が取り入れる際にそれが阻害される可能性のある要因は何か  
・日本で大学間で連携して評価体制をつくっていくために、どのような主体・方法が考えられるか  
・大学を超えてどう成果を出すか議論する際に、大学のあり方とセットにして議論できるか

10 参考文献・ヒアリング | 4. 19. 19.

学術的な研究成果とそうでない研究成果の間に境界線を引くことは可能か

・どこまでが学術的な書籍論文として定義づけられるのか

14 参考文献・ヒアリング | 15.

中長期的なインパクトを想像し、また表現する能力を研究者育成のスキームの中でいかに実現するか

・研究が学際化し、競争的資金の比重が高まっているなかで、若手のニーズを組み込み、彼らを支援するような評価のあり方をどのように考えていくことができるのか  
・視野が広く才能にあふれた科学者を埋没させずに見出し、評価し、支援するにはどうすればよいか  
・中長期的なインパクトを想像し、また表現する能力を研究者育成のスキームの中でいかに実現するか

18 参考文献・ヒアリング | 3. 9. 16.

インパクトの領域をどのように設定・理解し、どこまでを評価対象範囲とした上で評価するか

・インパクトの帰属先はどのように判定されるのか  
・評価や測定において、特定の研究成果とインパクトの関係をどのように整理するか  
・インパクトの基になった研究成果はどの程度古いものが許容されるべきであるか  
・ゆくりと蓄積される様々な知識をどう評価するか  
・研究の質・評価・規範を巡る「認識的文化」の違いの理解とそれを反映したより良い評価システムとは何か  
・研究活動の持つ社会・経済・文化的なインパクトをどのように理解し、また評価するか  
・インパクトを生む環境(組織戦略や体制)を測定や評価の対象にするか  
・研究からインパクトが生じる過程は複数の段階があり、どの段階を「インパクト」の対象とするか。(評価や測定において、「インパクト」をどのような範囲のものとして定義するか)  
・インパクトが多段階である場合に、研究とインパクトの関係は間接的になるため、どこまでを「特定の研究により生まれたインパクト」と認めるか

22 参考文献・ヒアリング | 17. 14. 14. 17. 16. 16. 14. 14. 14.

多様な評価の用途を踏まえた「評価」のあり方とはいかなるものか

・学術界における研究者の評価・報奨・インセンティブの仕組みの見直し  
・資源配分の指標としての評価と、学知の質の向上手段としての評価をいかにして一致させるか  
・分野毎の判断による出版物のポイント評価のあり方

25 参考文献・ヒアリング | 11. 1. 16.

学術内外の多様なアクター間との交流をどう評価するか

・評価のための表面的な批判や対応を超え、人文・社会科学の各分野における「より良い評価とは何か」、また「何のための評価であるのか」  
・「生産的相互作用」の積極的評価のあり方

29 参考文献・ヒアリング | 16. 16.

本プロジェクトは、「責任ある研究評価」への意識醸成、研究評価の改善に向けた活動に対して支援する助成金、DORA Community Engagement Grantsを得て実施しました(代表:藤川二葉)。

人文・社会科学系研究の  
評価に関する論点地図 Ver.1

企画:人文・社会科学系URAネットワーク(大阪大学経営企画オフィスURA部門、京都大学学術研究支援室(KURA)、筑波大学URA研究戦略推進室/ICR、琉球大学研究推進機構研究企画室、早稲田大学研究戦略センター、北海道大学学力強化推進本部URAステーション、横浜国立大学研究推進機構、中央大学研究推進支援本部、広島大学学術・社会連携推進機構URA部門、東京大学リサーチ・アドミニストラーター推進室、東北大学研究推進・支援機構URAセンター、新潟大学研究企画室、神戸大学学術研究推進室)発行:京都大学学術研究支援室(KURA)制作:西村勇哉、浜田真弓、松尾英里子、間所花奈子、北嶋友香、矢ノ目あゆ制作協力:NPO法人ミラツク人間文化研究機構(押海圭一、後藤真)デザイン:中家寿之

03 参考文献・ヒアリング | 20. 15. 15.

07 参考文献・ヒアリング | 21. 18.

11 参考文献・ヒアリング | 18. 18. 21.

15 参考文献・ヒアリング | 10. 18. 20.

19 参考文献・ヒアリング | 3.

22 参考文献・ヒアリング | 17. 14. 14. 17. 16. 16. 14. 14. 14.

26 参考文献・ヒアリング | 17. 14.

多様なデータや研究成果のオープン化を積極的に評価して奨励する環境をどう形成するか

・日本独自のデータ共有プラットフォームの構築、多様なデータや研究成果のオープン化を積極的に評価・奨励する環境をどう形成するか

04 参考文献・ヒアリング | 11.

評価の基本はピアレビュー、と云うだけでいいのか

・「研究評価が制度として求められるなら、それはいわゆるピアレビューを基本とするほかはない」という主張は正か

08 参考文献・ヒアリング | 15.

非効果的・過剰な評価から生じる評価疲れを防止するために何が必要か

・目的に応じた制度設計の見直しは可能か

12 参考文献・ヒアリング | 18.

URAの役割とは何か

・評価の問題も含めて、URAが特に人社系に対してどのような役割を果たしうるのか  
・URAなどの研究支援者には、研究評価に関する議論や最新情報の発信・共有の役割が期待される

16 参考文献・ヒアリング | 10. 13.

研究の多様性と、評価の標準性を両立させた制度をどう設計するか

・研究の「多様性」と比較可能な評価の「標準性」とを両立させた制度をどのように設計するか  
・指標が使われるときにはコンテキストから離れて使われるが、異なる分野、国、機関で行われたことを並列に比べられるのか  
・研究文化の変化のあり方によって、評価のやりやすさが変わっていくのではないか

20 参考文献・ヒアリング | 14. 9. 20.

研究評価について他分野とも共有可能な共通理解をつくっていくには何が必要か

・人文・社会科学の研究評価を各分野の専門家による評価を基本とした場合、専門外の人にもわかりやすい形にするにはどのようにすればよいか  
・国際社会や国家、市民あるいは他分野の研究者などの第三者にわかりやすく説明され、外部からも検証可能なように研究データを積極的に公表するには、何に配慮すべきか  
・研究評価の質を高めるためには、研究評価に関する幅広い議論や最新情報を様々なステークホルダーに適時発信・共有することが不可欠

23 参考文献・ヒアリング | 3. 3. 13.

本質的に学術研究が持つ意味の可視化は可能か

・海外の大学とは異なった教育形態を取る日本の大学において、人文社会系研究はどのように評価されるべきか  
・人文社会系研究全体として積み上げてきた文化や知識の厚みに、個々の研究成果がどのように貢献したのかを可視化するにはどうすればよいか  
・学問分野を既存のカテゴリーではなく、出版文化等の類似性によって別の分類をした場合、どんな可能性があるか  
・本質的に人文・社会科学研究が持つ意味の可視化は可能か  
・人社において広い範囲(分野)に影響を与えるインパクトをどのように見せていけるか

27 参考文献・ヒアリング | 5. 5. 21. 20. 19.



参考文献リンク集はこちら→